

講義名	キャリアデザイン		
講義コード	P103		
開講責任部署	ブライダルコース		
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	2.00	時間	60.00
代表時限	4時限	代表曜日	火曜日
学年・クラス	17P	自習時間	30
選択必修区分	コース必修		
代表担当教員	堀井 厚		

授業計画表		
回	テーマ	自習
第1回	キャリアデザインとは 授業の進め方 進路選択の手順	SPI 課題処理
第2回	アセスメントツールによる自己分析 — 一般職業適性検査	SPI 予習 SPI 課題処理
第3回	自己分析 自己の振り返り 観察	SPI 予習 SPI 課題処理
第4回	求める人物像（社会・企業） 社会人基礎力 個性との適合	SPI 予習 SPI 課題処理
第5回	雇用形態 景気動向 人口問題（日本の少子高齢化）	SPI 予習 SPI 課題処理
第6回	心理学と社会 法学と社会 経済学と社会	SPI 予習 SPI 課題処理
第7回	業種・業界研究 キャリアインサイト	SPI 予習 SPI 課題処理
第8回	ビジネスマナー	SPI 予習 SPI 課題処理
第9回	言葉遣い	SPI 予習 SPI 課題処理
第10回	会社の仕組み 給与・年収・生涯収入・生涯支出	SPI 予習 SPI 課題処理
第11回	社会保険の基礎知識	SPI 予習 SPI 課題処理
第12回	マーケティング 損益計算	SPI 予習 SPI 課題処理
第13回	志望動機 自己PR	SPI 予習 SPI 課題処理
第14回	履歴書 エントリーシート	SPI 予習 SPI 課題処理
第15回	前期の総括	SPI 予習 SPI 課題処理
第16回	就職試験の仕組み 就職試験の動向と対策（総論）	SPI 予習 SPI 課題処理
第17回	思考テスト・IQテスト対策	SPI 予習 SPI 課題処理
第18回	性格適性検査対策 SPI・CAB・GAB・YGテスト・クレベリン・・・	SPI 予習 SPI 課題処理
第19回	SPI 性格適性試験模擬試験	SPI 予習 SPI 課題処理
第20回	内定者講演会	SPI 予習 SPI 課題処理
第21回	論文文対策	SPI 予習 SPI 課題処理
第22回	敬称 手紙・電子メール・電話のマナー	SPI 予習 SPI 課題処理
第23回	求人票の見方 給与の手取り額の計算	SPI 予習 SPI 課題処理
第24回	リクルート活動の身だしなみ 就職活動メイクアップ講座	SPI 予習 SPI 課題処理
第25回	面接対策	SPI 予習 SPI 課題処理
第26回	学内企業展	SPI 予習 SPI 課題処理
第27回	SPI 模擬試験（言語問題）	SPI 予習 SPI 課題処理
第28回	SPI 模擬試験（非言語問題）	SPI 予習 SPI 課題処理
第29回	CAB 模擬試験	SPI 予習 SPI 課題処理
第30回	後期総括	SPI 予習 SPI 課題処理

意義と目的

自己分析・社会研究を行い、自身の価値観を確立して卒業後の生き方や働き方をプランニングし、有意義な大学生活を送ることを目的とします。併せて就職試験対策を行ないます。

到達目標

2018年1月迄に「卒業後に希望する進路」を決定し、就職試験に臨む準備が整っていること及び本授業で設定した標準レベル就職能力テストに合格することを目標とします。

方法

オリジナルのテキストに準拠して授業を進行します。毎回予習すべき箇所の解説を行い、小テストでその成果を確認します。理解できるまでテストを繰り返します。

評価方法

前後期末試験 50%
SPI対策小テスト 30%
課題提出物 10%
授業態度 10%

留意事項

できなかった事をとがめるつもりはありませんが、やらなかった事についてはペナルティを課し、評価に反映させます。地道な毎日の積み重ねが大切です。

教科書

NFCC キャリアデザイン&就職活動2019

参考文献

講義名	和装美学		
講義コード	P251		
開講責任部署	ブライダルコース		
講義開講時期	後期	講義区分	講義・実習
基準単位数	2.00	時間	60.00
代表時限	3時限	代表曜日	木曜日
学年・クラス	17P	自習時間	30
選択必修区分	選択		
代表担当教員	古川 幸子		

授業計画表		
回	テーマ	自習
第1回	ゆかたの歴史・ゆかたの種類 教材、小物類の説明と確認 体型別補正の作り方	<関連> ゆかたの歴史・ゆかたの種類について復習
第2回	ゆかたの歴史・体型別補正の作り方 着物を着たときの挨拶の仕方 座礼・立礼	<関連> 体型別補正について理解し、補正を作成
第3回	ゆかたの着つけと細帯の結び方 自分で着て知る着つけの心 下着の用い方、腰紐のしめ方	<関連> ゆかたの部分名称を理解し、着物のたたみ方、本たたみを復習
第4回	ゆかたの着つけと細帯の結び方 ゆかたの部分名称と細帯の知識 帯結び・一文字結び ゆかたのたたみ方	<関連> 細帯の一文字結びを覚えてバリエーションを楽しむ
第5回	細帯の帯結び・長襦袢に愛好半袴をつける 帯結び 一文字結び・男結び・文庫結び 細帯のたたみ方	<関連> 細帯の一文字結びを覚えてバリエーションを楽しむ
第6回	細帯の帯結び・長襦袢に愛好半袴をつける 長襦袢のたたみ方	<関連> 半袴のつけ方を理解し、長襦袢のたたみ方を復習
第7回	小紋の着つけと名古屋帯の知識 小紋の着物について 足袋のはき方、下着の用い方	<事前> 小紋の着物・名古屋帯の知識について予習
第8回	小紋の着つけと名古屋帯の知識 長襦袢、小紋の着つけポイント確認 着物のたたみ方(本たたみ)	<関連> 小紋を着るプロセスを理解し覚える
第9回	小紋の着つけと帯結び 名古屋帯一重太鼓 全通稱で結ぶ 帯揚げの整え方(平織り)	<関連> 一重太鼓を結び手順を覚え復習
第10回	小紋の着つけと帯結び 名古屋帯一重太鼓 全通稱で結ぶ 着物のたたみ方、名古屋帯のたたみ方	<関連> 小紋の着つけと名古屋帯 一重太鼓 確認ポイントをプリントに書き込む
第11回	小紋の着つけと帯結び 名古屋帯一重太鼓 お太鼓柄の結び方 帯揚げの整え方(平織り)	<関連> 帯揚げの整え方、帯締めを復習
第12回	小紋の着つけと帯結び 名古屋帯一重太鼓 お太鼓柄の結び方 着つけと帯結びポイント確認	<関連> 小紋の着つけと一重太鼓の結び方について復習
第13回	留袖の着つけとお客様への着つけの心構え ミセスの第一礼装 留袖について 比よく袴のしめ方、袋帯の知識	<事前> 留袖、家紋について調べる
第14回	留袖の着つけとお客様への着つけの心構え 技術者としての心得 長襦袢の着つけと留袖の着つけ	<関連> お客様への着つけの心構え、技術者としての心構えを理解する
第15回	留袖の着つけと帯結び 袋帯二重太鼓(六通稱) 補正・長襦袢・留袖着つけ・帯結び 袋帯のたたみ方	<関連> 他装時の腰紐の締め方、着つけ手順を理解する
第16回	留袖の着つけと帯結び 袋帯二重太鼓(六通稱) 補正・長襦袢・留袖着つけ・帯結び・ポイント	<関連> 留袖の約束事について復習
第17回	留袖の着つけと帯結び 袋帯二重太鼓(全通稱) 帯揚げの整え方(絞リ)	<関連> 留袖着つけと袋帯 二重太鼓 確認ポイントをプリントに書き込む
第18回	留袖の着つけと帯結び 袋帯二重太鼓(全通稱) 帯締めの整え方(平組)	<関連> 帯結び二重太鼓の復習
第19回	留袖の着つけと帯結び 袋帯二重太鼓(全通稱) 留袖着つけ総仕上げ 着物を着たときのマナー	<関連> 帯結び二重太鼓の復習
第20回	留袖の着つけと帯結び 袋帯二重太鼓(全通稱) 留袖着つけ総仕上げ 厚紙、帯板作成(振袖帯結び用)	<関連> 振袖帯結び用の帯板作成
第21回	振袖の着つけと伊達袴の知識 ミセスの第一礼装 振袖について 伊達袴の用い方	<関連> 振袖について、伊達袴の知識についての予習
第22回	振袖の着つけと伊達袴の知識 補正・長襦袢、振袖の着つけポイント確認 着物を着たときのマナー	<関連> 振袖の着つけポイントを確認し復習
第23回	振袖の着つけと帯結び 二枚扇 二枚扇の結び方 お太鼓柄の基本 帯のゴールデン・ポイント・システムについて	<関連> 二枚扇のプロセス・二枚扇のひだの取り方 (三枚の裏ひだ・きんちゃくひだ)復習
第24回	振袖の着つけと帯結び 二枚扇 ひだの取り方 三枚の裏ひだ・きんちゃくひだ 帯揚げの形づけ方、帯締めの整え方	<関連> 二枚扇のひだの取り方、三枚の裏ひだ、 きんちゃくひだの復習
第25回	振袖の着つけと帯結び 二枚扇 帯結びを美しく決める 帯のゴールデン・ポイント・システムについて	<関連> 帯のゴールデン・ポイント・システムを理解する
第26回	振袖の着つけと帯結び 二枚扇 ミセスの礼装と着つけポイント確認 着物を着たときのマナー	<関連> 振袖の着つけ、帯結び二枚扇のポイント復習
第27回	振袖着つけ 総仕上げのための特訓・時間をはかる 着物・帯・小物類準備(5分) 補正から振袖止めまで(5分)	<関連> 準備から振袖着つけと帯結びが時間内でできるようにする
第28回	振袖着つけ 総仕上げのための特訓・時間をはかる 着物・帯・小物類準備(5分) 補正から振袖止めまで(5分)	<関連> 準備から振袖着つけと帯結びが時間内でできるようにする
第29回	振袖着つけ 総仕上げのための特訓・時間をはかる 着物・帯・小物類準備(5分) 補正から振袖止めまで(5分)	<関連> 時間内に振袖着つけと帯結びがきれいに仕上がるようにする
第30回	振袖着つけ 総仕上げのための特訓・時間をはかる 着物・帯・小物類準備(5分) 補正から振袖止めまで(5分)	<関連> 時間内に振袖着つけと帯結びがきれいに仕上がるようにする

意義と目的

山野流美道「髪・顔・装い・精神美・健康美」を基本に着つけ技術、知識を学ぶ。
日本の文化を代表するきものの歴史、約束事などを学び、自装・他装の技術を習得する。

到達目標

①ゆかた・小紋の自装、留袖・振袖の他装技術ができる。
②ミスの礼装・盛装である振袖着つけ・帯結びの実技試験(査定)を目指す。
③山野流着装教室 初・中伝許状を取得できる。

方法

各回テーマの講義・技術展示説明後、自装・他装の実技実習を行う。
毎回、個々の技術確認をし、理解できるように進める。

評価方法

振袖着つけ技術(40%)、帯結び技術(40%)、受講態度(20%)

留意事項

①日本の民族衣裳、日本の文化を代表する着物に関心をもってほしい。
②ひとつひとつ理解できるように予習と復習を必ずしてほしい。
③最後まで投げ出さず、あきらめず、到達目標に向かって前進してほしい。

教科書

書名1 着物着つけ教本 著書名 山野愛子ジェーン 出版社 一般財団法人 国際美容協会 書名2 著書名 出版社

参考文献

シラバス 名古屋文化短期大学 NFCC 2017

印刷日：2017年09月19日

講義名	ブライダル演出法Ⅱ		
講義コード	P657		
開講責任部署	ブライダルコース		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2.00	時間	60.00
代表時限	1時限	代表曜日	水曜日
学年・クラス	16P	自習時間	30
選択必修区分	選択		
代表担当教員	萩原 大輔		

授業計画表		
回	テーマ	自習
第1回	ガイダンス	事前：自分好みのビジュアルを把握する
第2回	イントロダクション	事後：自分好みの映像表現を探る
第3回	代表的な映像作品の鑑賞	事前：有名な映像作品を視聴する
第4回	代表的なミュージックビデオの鑑賞	事後：日常の映像メディアを注意深く鑑賞する
第5回	ワークショップ1 「導入映像編」①-1	事前：参考となる短編映像を視聴し考察し、コンセプトシートを完成させる
第6回	ワークショップ1 「導入映像編」①-2	事後：素材の撮影を完了させる
第7回	ワークショップ1 「導入映像編」②-1	事前：素材の整理を行い編集準備をする
第8回	ワークショップ1 「導入映像編」②-2	事前：作品を完成させ、プレゼンテーションの準備を行う
第9回	ワークショップ2 「応用映像編」①-1	事前：参考となる短編映像を視聴し考察する
第10回	ワークショップ2 「応用映像編」①-2	事後：企画書（コンセプトシート）の構想をまとめる
第11回	ワークショップ2 「応用映像編」②-1	事後：企画書（コンセプトシート）を完成させる
第12回	ワークショップ2 「応用映像編」②-2	事前：作品素材や撮影機材を準備する
第13回	ワークショップ2 「応用映像編」③-1	事前：次の撮影のシュミレーションを行い、準備をする。
第14回	ワークショップ2 「応用映像編」③-2	事前：次の撮影のシュミレーションを行い、準備をする。
第15回	ワークショップ2 「応用映像編」④-1	事前：素材の整理を行い編集準備をする
第16回	ワークショップ2 「応用映像編」④-2	事後：作品を完成させる
第17回	作品発表会・講評会	事前：プレゼンテーションの準備を行う
第18回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」①	事前：参考となる映像を視聴し考察する
第19回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」②-1	事前：企画書（コンセプトシート）の構想を練る
第20回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」②-2	事後：企画書（コンセプトシート）の完成させる
第21回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」③-1	事前：作品素材や撮影機材を準備する
第22回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」③-2	事後：次の撮影のシュミレーションを行う
第23回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」④-1	事前：作品素材や撮影機材を準備する
第24回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」④-2	事後：作品素材整理する
第25回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」⑤-1	事前：編集準備を行う
第26回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」⑤-2	関連：編集作業を行う
第27回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」⑥-1	関連：映像作品を完成させる
第28回	ワークショップ3 「卒業記念フェアウェルウェディング映像編」⑥-2	事後：完成作品をメディアに移す
第29回	作品発表会・講評会	事前：プレゼンテーションの準備を行う
第30回	作品発表会・講評会	関連：プレゼンテーションの相互評価

意義と目的

デジタルデバイスの普及によりますます身近になった映像メディア。作例の研究や実制作を通して様々な考え方を学び、メディアに接する際の視野を広げる。

到達目標

作品を制作する上で意図を明確に相手に伝えるという事を第一目標とし、その為の考え方や表現方法を理解する。

方法

グループワークで行うアイデアでスカッションから様々な企画のプランニングを行い、PCやiPadを駆使した実践ワークショップ形式で作品を制作する。

評価方法

作品制作（50%）、レポート（20%）、プレゼンテーション（20%）、授業態度（10%）

留意事項

流行の映画やTV番組・CMなどコンテンツを受動的にただ消費するだけではなく、そのコンテンツの意図を探るよう考察することを事前学習とする。また名古屋近辺でも良質なメディアアートに触れる機会が増えているので、そういったイベントには積極的に足を運び吸収するよう心がける。講義は実践形式のワークショップが中心となるため授業には欠かさず出席すること。

教科書

書名1 著書名 出版社 書名2 著書名 出版社

参考文献

WIERD、美術手帳、AXIS、テクネ 映像の教科書 DVD BOOK、映像作家100人、デザインあ

